

2016年度前期

NITE講座(シラバス)

科目名	事業者等における製品安全対策の基礎知識	教室定員	50名	拠点 (開講機関)	大阪 (製品評価技術基盤機構)	講義日時	毎週火曜日18:30~20:30
科目概要(300字)	近年、種々の製品事故が顕在化し消費者が使用する製品の安全性が大きく注目を集めています。製品事故は製品に原因がある事故だけではなく誤使用による事故も発生しており、また高齢者や子供特有の事故も見られます。本講座では製品事故事例、事故調査方法、誤使用の防止、高齢者及び子供の事故等について紹介し、製品事故の防止やリスク評価のためのリスクアセスメント、リコール対策、製品安全4法、消費者行政、認定・認証制度、海外の製品安全動向について解説します。 本講座を受講することにより、製品事故とその調査方法、リスク評価、リコールや法律等による事故防止等についての基礎的かつ幅広い知識を得ることができ、企業等における設計や製造時における製品安全対策等に役立てることができます。						

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取り纏め者
製品事故の現状	1	製品事故の動向	オリエンテーション 製品評価技術基盤機構の事故情報収集調査結果を用い、製品事故動向を分析し考察する。	6月7日	製品評価技術基盤機構 大阪事業所 (大阪市住之江区南港北)	製品安全センター リスク評価広報課 灰川祐司
	2	注目事故、原因究明(電気分野)	電気製品における特徴的な事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故の特徴を考察する。	6月14日		
	3	最近の注目事故、原因究明(電気分野以外)	最近の電気製品以外の製品における特徴的な事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故の特徴を考察する。	6月21日		
	4	事故事例における調査手法	事故事例を用いて、事故の原因調査をどのような手順で行うのかを意見交換しながら疑似体験する。	6月28日		
製品事故の防止対策	5	誤使用事故の防止 (事業者の取り組み、消費者の役割)	誤使用や不注意によって発生している製品事故について、誤使用防止の観点から、作る側と使う側それぞれの立場で配慮すべきことはなにかを考察する。	7月5日		
	6	標準化による事故防止対策	社会的弱者である高齢者、乳幼児の事故事例をもとに、標準化による事故防止対策について紹介する。	7月12日		
	7	リスクアセスメントの活用	リスクアセスメント ^{注1} の理論と実例によるリスク評価の実際を体験する。	7月19日		
	8	事故情報とリコール対策	日本における消費生活用製品等に係るリコール・回収の現状を分析し、リコール制度、リコール効果向上のための方策などについて考察する。	7月26日		
製品安全における法令・制度	9	製品安全4法の状況(電安法を中心に)	製品安全4法の概要と「性能規定化」及び今後の方向性について紹介する。	8月2日		
	10	海外における製品安全動向	海外においてリコールされた製品や、対策が求められる製品の、製品安全確保の取り組み状況や施策について紹介する。	8月9日		
	11	認定・認証制度	国際ルールの認定・認証制度 ^{注2} とその制度における国内外の現状について概観するとともに、製品安全との関わりについて論じる。	8月23日		
	12	製品安全施策と消費者行政	日本において製品事故のリスクを低減し安全を確保するため、どのような施策がとられているかについて、消費者行政を含めて紹介する。	8月30日		

注1:製品事故が起こる可能性を洗い出し、どのようにリスクを低減させるのか検討し、決定する一連の流れ

注2:規格の基準を満たしていることを第三者の立場から証明することが「認証」、認証を行う機関が、認定を行う能力を有しているかどうか実証するのが「認定」